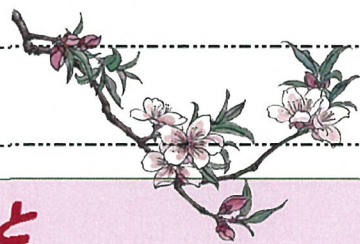


## トネリコ通信



### 協調性ということ

今まで、皆さんにお伝えしてきた事柄で一番多いのが、現場での労災事故に関するものでした。次に多いのがマンションにお住まいのお客様への接し方に関する事です。しかし、トラブルは一緒に働く仲間同士の間でも起こります。

トラブルが発生すると、現場の雰囲気がギクシャクして古い仲間が辞めていったりするのです。人の出入りが多くなります。その結果、作業の品質に影響が出て、最終的にお客様にご迷惑がかかることとなります。

一番多いのが「挨拶をしない」。朝出勤してきた時に、同僚が「おはよう」と声を掛けても無視して挨拶を返さない。一日の始まりの挨拶を完全に無視された同僚は、その日の仕事の間、悲しい気持ちで仕事をするのでしよう。そして、あの人に挨拶しても、また無視されるかも知れない。それでは、こちらから挨拶をするのをやめておこう・・・というように事態が負の流れに傾き始めるのです。

朝の挨拶を返さなかった同僚には、それなりの言い分があるかも知れません。考え事をしていて気が付かなかった、あるいは、前の日夫婦喧嘩をして、その気持ちを引きずったまま出勤してしまった、などです。しかし、このような事は誰にも経験のあることなので、同僚から理解してもらえます。

ここで、問題にしているのは、「確信的」にわざと無視して挨拶をしないという場合です。このことは、大抵の人に理解して貰う事が出来ません。理由がわからないからです。このような行動をとる人に「なぜ？」と問を発しても、「私は自分の好きなように行動する」という返事が返ってきます。とても、納得できる返事ではありませんね。理解できず、納得できない同僚たちは、毎日の嫌な雰囲気に耐えられず、次々と辞めていきます。そして、退職したパートさんのかわりに採用した、新しい同僚もこのトラブルのもとの本人が残る限りは、採用しては辞めていくということを繰り返す結果となります。

これは、極端な例ですが、協調性に欠ける人は世の中に沢山います。普通に協調性を備えている人からは、協調性のない人の行動は理解できないことが多く、協調性の欠如している人は、なぜ自分が非難されるのか納得できません。水かけ論です。世の中には口数の少ない、無口な人もいます。それは個性です。そのことと協調性がなく挨拶をされてわざとそっぽを向いて無視するのでは大きな違いがあります。個性を変えることは難しい事ですが、協調性はいくらかでも身に着けることができます。

最低限、朝の挨拶はマナーであり、礼儀です。理由なく同僚の挨拶を無視する事はたんなる「礼儀知らず」の烙印を押されるだけです。



人は、全く一人で生きていくことはできません。さまざまな人間関係の中で支え合って生きるものです。礼儀は人々が助け合って生きていくために必要な事です。朝に「おはようございます」、作業の終了時に「お疲れ様でした」とひとこと言うだけです。そのことが自分自身の「心の健康」に役立ちます。「心の健康」は目に見えないものですが、自分の気持ち次第で健康を保つことができます。

ストレスは自分が被害者の立場であると考えがちですが、加害者の立場で他人に重大なストレスを与えてしまっている、という事もあるのです。